

平成28年3月31日作成

学校自己評価

学校法人 光厳学園

みどりの丘こども園

学校評価とは…

○学校評価には、次の3つがある。

- 1) 自己評価・・・園長を中心に、教職員で自園の教育活動や園運営等について評価すること
- 2) 学校関係者評価・・・1)の自己評価の結果が妥当なものかどうか、保護者や地域の人などで構成された評価委員で評価すること
- 3) 第三者評価・・・園とは関係を有しない専門家等による客観的評価のこと

○自己評価の進め方

- ① 重点的に取り組むことが必要な目標の設定
- ② 評価項目・指標の設定
- ③ 自己評価の実施
 - ・設定した評価項目について、園長を中心に全職員で話し合い評価する
 - また、その結果を踏まえた今後改善策なども検討する
- ④ 自己評価結果の公表

① 教育課程・指導に対する評価

- ・園の教育目標や活動形態

毎年、各年齢共に具体的な目標設定を定め、保育に取り組んでいる。

- ・教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況

同じ方向を向いて保育にあたっているが、もう少し職員間で話し合いを持った方が良い時もある。

- ・行事の管理、実施体制の状況

進められるところは、事前に準備を進めていき子どもたちに無理のない計画をたてている。

- ・年間の指導計画や週案などの作成の状況

年間計画、週案共に幼保一体の施設である保育園の保育士と話し合いを持ち、年齢にあったものを取り入れている。

- ・幼小の円滑な連携、接続に関する工夫の状況

幼小については、町の保幼小会議があり、年に数回会議を持っている。幼小の接続についてはスタートカリキュラムを制作し、なだらかな接続になるようすすめている。卒業前には、幼稚園から小学校へ連絡事項を伝達する連絡会を持っている。

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

環境を通して行う幼稚園教育の実施状況

園周辺は、車の通りも少なく子ども達が散策等をする環境はたくさんある。できるだけ自然に触れる機会を作っている。

- ・幼児との信頼関係の構築の状況

子ども達とたくさん話し、子ども達が親しみやすい雰囲気を作っている。また、3学期には個人指導の時間を重点的に作り、個々の苦手克服に努めている。

- ・幼児の主体的な活動の尊重

子ども達が主体的な活動をしていけるよう声掛けや環境設定を行っている。特に朝の自由遊びの時間には子ども達が主体的な活動ができるようにしていく。

- ・遊びを通しての総合的な指導の状況

遊びの中で多くを学んでいけるよう指導している。

- ・一人一人の発達の特性に応じた指導の状況

少人数での保育のため、一人一人の特性に配慮して保育にあたれるようにしている。

② 保健管理

- ・ 日常の健康管理や、疾病予防のための取組、健康診断の実施の状況

毎朝、受け入れ時に視診や保護者からの健康に関する連絡事項を伝達してもらっている。出席確認時には子ども達が元気かどうかを申告出来るような格に行っている。健康診断は、年に2度の内科検診、年に1度の歯科検診、ぎょう虫検査、学期に1度の身体測定を行っている。
疾病予防については知識が浅い職員もいるため、職員間で確認をしながら予防に努めている。

③ 安全管理

- ・ 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況

緊急事態発生時には、どのように対応したら良いか等の防災対応マニュアルを作成し、職員1人1人が所持出来る数を用意した。個々で内容の確認・把握を徹底していく。
救急時にもどのように対応するかマニュアルを作成。
作成はしたが、徹底出来るかが重要なため、徹底出来るようにしていく。

- ・ 事故等の緊急事態発生時の対応の状況

主にクラス担任が対応。大きな怪我が今までに起きていないため、担任のみの対応で済んでいるが、複数で対応する場合には、フリーの職員等も対応にあたる。
以前、けいれんが起きて救急車を呼んだ時に対応が足りなかった部分もあったため、見直しをしていった。

- ・ 安全点検や、教職員・幼児の安全対応能力の向上を図るための取り組みの状況

安全点検は、表を作成し定期的に点検を行っている。
安全対応能力の向上を図るための取り組みは、特に行っていないため今後取り組む必要がある。

④ 特別支援教育

- ・ 特別支援教育のコーディネーターの指名、特別支援教育のための園内支援体制の整備の状況

中川の郷の作業療法士や言語療法士に来てもらい、各クラスの気になる子を見てもらい、アドバイスをもらっている。必要に応じて中川の郷へ行き、実際に行っている訓練の様子の見学をしている。

- ・ 個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成の状況

個別に必要な場合には、計画を作成する。全体の認識は薄いですが、担任と補助に入る職員には、計画や特記事項の把握を行っている。

- ・ 家庭との連携状況

診断の出ている子に関しては家庭と光に連絡を取り、様子を伝えあっている。気になる子、ボーダーラインと思われる子に関しては、面談等落ち着いて話ができる際に伝えていくが、現在は様子を見ているのみで家庭に伝える程ではないかと思う。

⑤ 研修（資質向上の取り組み）

- ・ 園内における研修の実施体制の整備状況

年度始めには、全職員が数回ずつ言葉遊び・文字遊び・数遊び・音遊びの研修を行っている。

- ・ 園外研修の実施・参加状況

個々に必要な内容の研修には、参加している。研修後は、報告書を提出している。

- ・ 指導が不適切である職員の状況の把握と対応の状況

園長、教頭、主幹保育教諭が把握をし、必要に応じて本人と話をしていく。

⑥ 子育て支援

- ・ 地域や保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動の実施状況

今年度より本格的に始める。子育て相談のみでなく、未就園児対象の保育事業も始める。井戸端会議や子育て講座も行う。

- ・ 教職員のカウンセリングの基礎の理解と相談機能の状況

特に研修等には参加していないため、専門的な知識は薄いですが職員同士話し合い、基礎の理解を高めている。

- ・ 他の関係機関との連携状況

子育て講座は、埼玉県の子育てアドバイザーを招き、講演をして頂いている。

⑦ 預かり保育

- ・ 保護者の実情や要望による預かり保育の実施状況

毎日、降園時間（14時）～17時30分まで預かり保育を行っている。半日保育時もその都度の降園時間より実施。春、夏、冬の長期休み期間は保育園にて預かり保

育を行っている。

- ・園や教職員による受入れ体制の状況

通常の預かり保育は幼稚園教諭、長期休み期間は保育士が担当している。保育士も幼稚園教諭免許は取得している。

⑧ 教育環境整備

○施設・設備

- ・施設・設備の活用状況

余裕教室は、楽器練習の部屋として活用している。

- ・設置者と連携した施設・整備の安全・維持管理のための点検の取組の状況

安全点検後は、設置者へ報告するようになっている。

○遊具・用具・図書等

- ・設置者と連携した遊具・用具・図書等の整備の状況

遊具は夏休みにペンキ塗りを行う。用具は使う前には点検を行う。図書は長期休み中に点検、修理を行う。

何れも確認後は、設置者へ報告している。

- ・設置者と連携した学習・生活環境の充実のための取組状況

必要に応じて教材は購入している。

また、絵本は追加購入することが多く、子ども達が飽きないよう配慮している。